



ココロさんの ひとりごと

チャレンジしようとする気持ち

2022年11月 No.25



コロナ感染予防にかかわる制限も少しずつ緩和され、学校でできる活動も徐々が増えてきました。子どもたちにはこれまでの分も取り返す気持ちで、いろいろな体験をしてほしいと思いますが、「新しいこと、やってみたら」と促してみても、最初からあきらめてチャレンジしようとしなないことがあります。これは「自分の力では無理だ」「失敗したら自分が傷つく」「できなかつたら認めてもえない」など、失敗に対する不安や心配があるからかもしれません。

『失敗は成功のもと』といった言葉があるように、「失敗することで成長する」という面があります。子どもが失敗を恐れずチャレンジしようとする気持ちをもつことができるかどうかは、失敗した時の大人の対応や言葉かけで変わってくるのではないのでしょうか。

対応の仕方でも大切なことを考えてみます。

一つ目は「プロセスを認める」

例えば、テストの結果では、点数だけで判断しないように、例えば苦手な分野に対しても一生懸命に子どもが勉強をしたというようなプロセスに目を向けましょう。点数は低くても、勉強したことは本人の頑張りであり、その努力や経験は次へのチャレンジにつながります。

二つ目は「できたことを誉める」

大人は、できないことに注目しがちです。例えば、子どもがサッカーの試合で、上手なプレーができなかったとします。しかし、試合中ずっとがんばってボールを追いかけたり大きな声を出したりといった良い点があったなら、そこに注目し誉めることで、またチャレンジしてみようという気持ちになります。

三つ目は「人と比較しない」

兄弟姉妹は勉強や習い事、スポーツ、など比較の対象になりがちで、知らず知らずのうちに競争をしています。その上に、「お兄ちゃんは成績が良かったのに」とつぶやくだけでも、弟はやる気をなくしてしまうことがあります。兄弟姉妹、友だちなど、人と比較せずに、関わるのが大切です。

実は、失敗に耐えられないのは子ども自身ではなく、大人なのかもしれません。子どもが失敗したことに対し、大人が先々の事について心配や不安を感じてしまい、それが子どもへの関わり方や対応の仕方に影響を及ぼします。

大人が子どもを認めることによって、失敗を恐れずチャレンジしようとする気持ちが高まるのではないのでしょうか。

